

訂 原稿 正序

テモテ前書

第一章 希望

一 我らの救主なる神と我らの希望なるキリスト、イエスとの命によりてキリスト、イエスの使徒となれるパウロ只信仰によりて我が眞實の子たるテモテに書を贈る。頼くは父なる神および我らの主キリスト、イエスより賜ふ恩恵と憐憫と平安と、汝に在らんことを。

二 我マケドニヤに往きしとき汝に勧めし如く、汝なほ工パツに留り、或る人々に命じて異なる教を傳ふることなく、昔話と窮りなき系圖とに心を寄すること勿らしめよ。此らの事は信仰に基ける神の経綸の助とからず、反つて議

聖書改譯原稿用紙

九 論を生ずるなり。命令の目的は、清き心と善き良心と偽りなき信仰とより出づる愛にあり。或る人々これらの事より反つて、外づれて空しき物論に移り、律法の教師たらんと欲して、反つて其の言ふ所、その確證する所を自ら悟らざらば、善き者なるを我らは知る。律法を用ふる者は、律法の正しき人のために設けられたるにあらずして、不法のもの、服従せぬもの、敬虔ならぬもの、罪あるもの、潔からぬもの、妄なるもの、父を撃つもの、人を殺す者、淫行のもの、男色を行ふもの、人を誘拐すもの、偽る者、いつはり誓ふ者の為、そのほか健全なる教に逆ふ凡ての事の爲なり。

＊或は「殺す」と誤す

設けられた

土 知るべし。 **是は我に委ね給ひし幸福なる神の栄光の**

福音に猶へるなり。 **我に能力を賜ふ我らの主キリスト、イ**

エスに感謝す。 **われ曩には瀆す者、迫害する者、暴行の者、**

りしに、我を忠實なる者として、この職に任じ給ひたればな

り。 **我信ぜぬ時に知らずして行ひし故に憐憫を蒙れり。**

して我らの主の恩恵は、キリスト、イエスに由れる信仰およ

び愛ともに溢るばかり増せり。 **キリスト、イエス罪人**

を救はん為に世に來り給へりとは信ぜずば正しく受くべ

き言なり、其の罪人の中にて我は首なり。 **然るに我が憐憫**

を蒙りしは、キリスト、イエス我を首に寛容を悉く表はし以

聖書改譯原稿用紙

後彼を信じて永遠の生命を受けんとする者の模範となし

給はん為なり。 **願くは萬世の王即ち朽ちず見えざる唯一**

の神は世々限りなく尊貴と栄光とあらんことを、アアメン。

わが子テモテ汝を指したる凡ての預言に従ひて我に

の命令を汝に委ぬ。 **これ汝がその預言に由り信仰と善き良**

心とを保ちて、善き戦闘を戦はん為なり。 **或人善き良心を**

捨て、**信仰の破船をふせり。** その中にヒメナオとアレキ

サニデルとあり、彼らに瀆すまじき事を學ばせんとて我に

れをサタンに付せり。

第二章

有つもの領へ、おのおの領へ、

贖價

大啓「読まじと尋す八

一 然れば我第一に勸む、凡ての人のため、王たち及び凡て
 權を有つ者のために、領祈禱、とりなし、感謝せよ。是われら
 敬虔と謹嚴とを盡して安かに静に一生を過さん為なり。
 二 斯くするは美事にして我らの救主なる神の御意に適ふこ
 三 とふり。神は凡ての人の救はれて、真理を悟る知識に至ら
 四 んことを欲し給ふ。それ神は唯一なり、又神と人との間の
 五 中保も唯一にして、人なるキリスト、イエスは是なり。彼は已
 六 を與へて凡ての人の贖罪となり給へり、時至りて證せらる。
 七 我これが為に立てられて宣傳者となり、使徒となり、我は

聖書改譯原稿用紙

八 眞を言ひて虚偽を言はず、又信仰と眞とを以て異邦人を教
 九 ふる教師となれり。この故に我望む、男は怒らず、争はず、何
 十 れの處にて潔き手を上げて祈らんことを、また女は恥
 十一 を知り、慎みて宜しきに合ふ衣にて己を飾り、編みたる頭髮
 十二 金と眞珠と價貴き衣とを飾とせず、善き業をもて飾とせ
 十三 ん事を、これ神を敬はん、と公言する女に適へる事なり。女
 十四 は凡ての事従順にして、静に道を學ぶべし。われ女の教ふ
 十五 ることを、男の上に權を取らる事とを許さず、たゞ静に為べし。
 十六 それアダムは前に造られ、エバは後に造られたり。アダ
 十七 ムは惑はされず、女は惑はされて罪に陥りたるなり。然れ

498

どまもし慎みて信仰と愛と潔とに居らば子を生むことに
因りて救はるべし。

聖書改譯原稿用紙

第三章

慥^シニ

傲慢^{ガクマン}に^ニなりて

聖書改譯原稿用紙

一 人もし監督の職を慕はば、これ善き業を頼ふなりとは、
 二 信ずべき言なり。それ監督は責むべき所なく、一人の妻の
 夫にして自ら制し、慎品行正しく、旅人を懇ろに待ひ、能く教
 三 へ、酒を嗜まず、人を打たず、寛容にして、争はず、金を貪らず、
 四 善く己が家を理め、謹厳にして、子女を従順からしむる者
 五 たるべし。一人もし己が家を理むる事を知らずば、争でか神
 六 の教會をあつかふことを得人。また新に教に入りし者を
 七 らざるべし、恐くは高りて悪魔と同じ審判を受くるに到ら
 八 の罟とに陥らん。執事もまた同じく謹厳にして、言を二つ
 九 にせず、大酒せず、恥づべき利をとらず、潔き良心をもて信
 十 仰の奥義を保つものたるべし。先かれらを試みて責むべ
 十一 き所なくば、執事の職に任ずべし。女もまた謹厳にして人
 十二 を誘らず、自ら制して、凡ての事に忠實なる者たるべし。執
 十三 事は一人の妻の夫にして、子女と己が家とを善く理むる者
 十四 たるべし。善く執事の職をなす者は善き地位を得、かつ善
 十五 りスト、イエスに於ける信仰につきて大なる勇氣を得るふ
 十六 り。

われ速かに汝に往かんことを望めど、今これらの(事と)

五
 を書^かき贈^{おく}るは、若^もし違^{おそ}からんとき人^{ひと}の如何^{いか}に神^{かみ}の家^{いえ}に行^い
 ふべきかを汝^{あた}に知^しらしめん為^{ため}なり。神^{かみ}の家^{いえ}は活^いける神^{かみ}の教^け
 夫^こ會^{かい}なり真理^{しんり}の柱^{はしら}、真理^{しんり}の基^{もと}なり。
 義^ぎに大^{おほ}なるかな、敬^{せい}虔^{けん}の奥^{おく}

キリストは肉^{にく}にて顯^{あら}され

靈^{れい}にて義^ぎとせられ

御使^{みづか}たちに見^みられ

とろひらの國人^{くわにんと}に宣^{のたま}傳^{つた}へられ

世^よに信^{しん}ぜられ

栄光^{えいこう}の中^{うち}に上^あげられ給^{たま}へり

聖書改譯原稿用紙

サモテ前書

一 然れど御霊明かに、或人の後の日に及びて、惑す霊と悪鬼の教とに心を寄せ、信仰より離れんことを言ひ給ふ。

二 これ虚偽を言ふ者の偽善によりてあり。彼らは良心を焼金にて烙かれ、婚姻するを禁じ、食を断つことを命ず。されど食は神の造り給ふる物にして、信じかつ真理を知る者の感謝して受くべきものなり。神の造り給ふる物はみな善し、によりて潔めらるなり。

聖書改譯原稿用紙

六 汝もし此等のことを兄弟に教へば、信仰と汝の従ひたる善き教との言にて養はるゝ所のキリスト、イエスの良き役者たるべし。されど妄なる談と走いたる女の昔言とを捨てよ、また自ら敬虔を修行せよ。身体からだの修行も聊か益あれば、敬虔は今の生命と後の生命との約束を有て凡の事に益あり。これ信ずべく正しく受くべき言なり。我らは之が爲めに勞し、且つ苦心す。我ら凡ての人、殊に信する者の救主なる活ける神に望を置けばなり。

七 汝これらの事を命じ、かつ教へよ。なんぢ年若きをもて人に軽んぜらるな、反つて言にも、行為にも、愛にも、信仰にも、潔にも、信者の模範となれ。我が到るまで、讀む事勸むる

行状

五

夫

夫

事こと教をふる事ことに心こころを用もちひよ。
 汝おんぢやうらう長老ちやうらうたちの接あんしや手うを受け預よげん言げん
 によりて賜たまはりたる賜物たまものを尋まね問まにすな。なんぢ心こころを傾かたむけて
 此等これらのことを専もつぱら務つとめよ。汝おんぢの進歩しんぽの明あきまらならん為ためなり。
 なんぢ己おのれとおのれの教をとを慎つしみて此等これらのことに怠おこたるな、斯かく
 なして己おのれと聞きく者ものとを救すくふべし。

聖書改譯原稿用紙